

田無神社 龍神池 調査・管理報告書

活動日	2022年4月25日	天候	晴れ	活動時間	9:30～12:30
作業者	舟木 匡志、山下 洋平			報告者	舟木 匡志
目的	生物調査 および ビオトープ管理				
内容					
【作業内容】 ・龍神池の写真撮影 ・生物調査 ・外来種の駆除 ・水浄化フィルターの清掃 ・在来種モツゴの放流					
【昨年実施したかいぼりについて】 ・池の水質改善と品種メダカの捕獲・駆除を目的としたかいぼりを昨年12月に実施、今年3月まで天日干しを行った。 ・復水後には飼養していた生きもの(トンボ類のヤゴ、ヒメタニシ、ヒルムシロ属sp.)を放流している。					
【生物調査の詳細】 ・ビオトープ創出時に導入した生物も含め、生息・生育状況の調査を実施した。 ・ヒキガエル類の幼生(4個体)を確認した。外部から放流された可能性が高いことから駆除を行った。 ・深場でクロスジギンヤンマ、ハグロトンボ、シオカラトンボのヤゴを確認した。 ・天日干し後に戻したヒルムシロ属sp.が成長していた。 ・浅瀬にて絶滅危惧種シャジクモ(東京都レッドリスト2020:VU)の発芽を多数確認した。 ・池全体でユスリカ(幼虫)が大量発生していた。これはかいぼりによって捕食者であるメダカを駆除したためと考えられる。 ・流れ込みの石で給水しているハムシドロバチの一種を確認した。本殿横の待合殿の柱で営巣しているのを確認している。 ・同じ多摩川水系である野川から在来種のモツゴを捕獲し、12匹(雌雄各6匹)を池内に放流した。					
【ビオトープの管理作業】 ・池脇に植栽されたコムラサキが枯れているとのことだったので確認を行った。一部の枝は枯死していたが、芽が出ている枝も確認できたため、次回まで様子を見ることとした。 ・水浄化フィルターが汚れていたため、ろ材の洗浄を行った。					
【その他】 ・社務所横のイチヨウの枝が剪定され、龍神池に光が当たるようになった。					



No. 1

撮影日: 2022/4/25

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・調査前の様子



No. 2

撮影日: 2022/4/25

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・調査前の様子。



No. 3

撮影日: 2022/4/25

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・境内の様子。
鯉のぼりが設置されていた。



No. 4

撮影日: 2022/4/25

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・調査後の様子。



No. 5

撮影日: 2022/4/25

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・調査後の様子。



No. 6

撮影日: 2022/4/25

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・調査後の様子。

	No. <u>7</u> 撮影日: 2022/4/25 撮影場所: 田無神社 龍神池 解説 確認されたシオカラトンボのヤゴ。
	No. <u>8</u> 撮影日: 2022/4/25 撮影場所: 田無神社 龍神池 解説 確認されたクロイトトンボのヤゴ。
	No. <u>9</u> 撮影日: 2022/4/25 撮影場所: 田無神社 龍神池 解説 確認されたクロスジギンヤンマのヤゴ。

	No. <u>10</u> 撮影日: 2022/4/25 撮影場所: 田無神社 龍神池 解説 浅瀬でシャジクモが複数発芽しているのを確認した。
	No. <u>11</u> 撮影日: 2022/4/25 撮影場所: 田無神社 龍神池 解説 池の脇ではヘビイチゴが花を咲かせていた。
	No. <u>12</u> 撮影日: 2022/4/25 撮影場所: 田無神社 龍神池 解説 コセアカアメンボの交尾を確認した。



No. 13

撮影日: 2022/4/25

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

・流れ込みの部分に外来種であるサカマキガイを確認した。かいぼり前よりも個体数が減少していた。



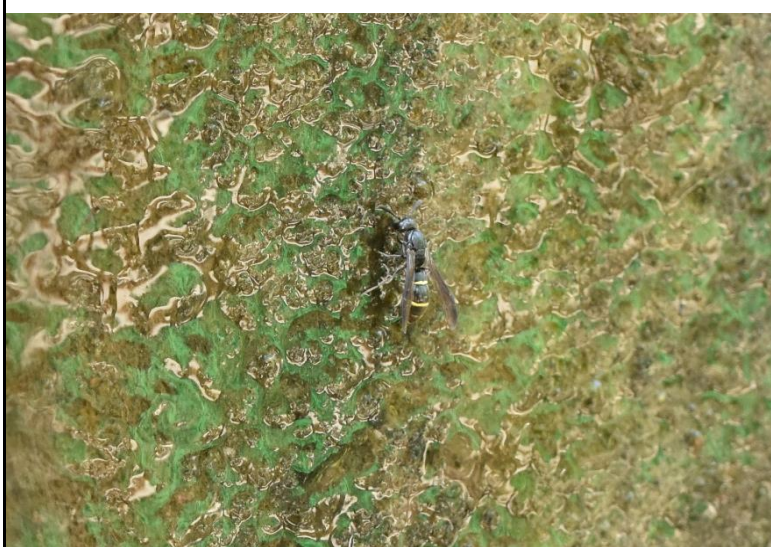
No. 14

撮影日: 2022/4/25

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

ミナミメダカと品種メダカとの交雑が懸念されたため、メダカを取り除き在来種のもつご(12個体)を放流した。



No. 15

撮影日: 2022/4/25

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

流れ込み部分で吸水するハムシドロバチの一種を確認した。

	No. 16 撮影日: 2022/4/25 撮影場所: 田無神社 龍神池 解説 本殿横の待合殿の柱でハムシドロバチの一種が営巣しているのを確認した。
	No. 17 撮影日: 2022/4/25 撮影場所: 田無神社 龍神池 解説 待合殿の柱にあいたハムシドロバチの巣穴。
	No. 18 撮影日: 2022/4/25 撮影場所: 田無神社 龍神池 解説 池に設置されたるろ過装置の洗浄を行った。



No. 19

撮影日: 2022/4/25

撮影場所: 田無神社 龍神池

解説

池に設置されたろ過装置の洗浄を行った。

田無神社 龍神池 確認生物リスト

分類	種名	レア度 ※別表1	経緯 ※別表2	希少性 ※別表3		外来種	備考	確認記録 ※注			
				環境省	東京都 北多摩			2019年度	2020年度	2021年度	2022年 5/11
両生類	トウキョウダルマガエル	SR	導入	NT	CR			○	○		
	ヤマアカガエル	SR	放流		EN				○		
	アカガエル類	－	放流							○	
	ヒキガエル類の幼生	－	放流				放流された可能性が高いことから駆除を行った。			○	○
	ニホンアマガエル	SR	導入		VU			○			
爬虫類	ヒバカリ	SR	自然		VU					△	
魚類	モツゴ	A	導入				多摩川水系の個体を12個体放流した。				○
	ミナミメダカ	SR	導入	VU	CR+EN			○	○	－	
	品種メダカ	外	遺棄・放流			○				○	
貝類	ヒメタニシ	A	導入					○	○	○	○
	イシマキガイ	A	非意図的導入					○			
	サカマキガイ	外	非意図的導入			○	流れ込み部で数個体確認。駆除を行った。	○	○	○	○
昆虫類	コセアカアメンボ	A	自然飛来				成体を多数確認した。	○	○	○	○
	ヒメアメンボ	A	自然飛来						○		
	ホルバートケシカタビロアメンボ	A	自然飛来						○		
	シロジュウシホシテントウ	B	自然飛来						○		
	ナミテントウ	B	自然飛来						○		
	マメコガネ	B	自然飛来						○		
	ニホンミツバチ	A	自然飛来					○	○		
	ヒメスズメバチ	A	自然飛来							○	
	ハムシドロバチの一種	B	自然飛来				本殿横の待合殿の柱で営巣を確認した。				○
	クロスジギンヤンマ	A	自然飛来				幼虫を1個体確認。	○	○	○	○
	ハグロトンボ	A	非意図的導入					○			
	クロイトトンボ	A	自然飛来					○	○	○	○
	イトトンボ科の幼虫	A	自然飛来							○	
	オオシオカラトンボ	A	自然飛来					○	○	○	
	シオカラトンボ	A	自然飛来				幼虫を2個体確認。		○	○	○
	トンボ科の幼虫	A	自然飛来						○	○	
	イチモンジセセリ	A	自然飛来							○	
	ホソヒラタアブ	B	自然飛来						○		
	コカゲロウ属の一種	B	自然飛来						○		
	ユスリカ科の一種	B	自然飛来						○	○	○
	ヒトスジシマカ	B	自然飛来					○	○	○	○
その他動物	イシビル科の一種	B	非意図的導入						○	○	
植物	メリケンガヤツリ	外	非意図的導入			○				○	
	セキショウ	A	導入					○	○	○	○
	コナギ	A	導入					○		○	
	ヒルムシロ属の一種	SR or R	導入					○	○	○	○
	ウキヤガラ	SR or R	導入		VU			○	○		
	ミゾソバ	A	導入					○	○	○	○
	アゼナ	A	土壌由来					○			
	ウキクサ	B	土壌由来					○	○	○	
	シャジクモ	SR	発芽	VU	VU（本土部）		浅瀬で多数確認した。	○	○	○	○
	ヘビイチゴ	B	土壌由来				花を確認した。		○	○	○
	ダンドボロギク	外	自然飛来			○				○	
	アメリカタカサブロウ	外	土壌由来			○		○	○	○	
	オオカナダモ	外	遺棄・放流			○		○			

※確認記録 ○:調査で確認、△:聞き取り等で確認

別表1 レア度について

カテゴリ	表記	基準	一例
スーパーレア	SR	環境省または東京都のレッドリストVU以上	オオタカ、フクロウ、ニホンカナヘビ、アズマヒキガエル
レア	R	環境省または東京都のレッドリストNT、DD、留意種など	ニホンアナグマ、アオダイショウ、ヤマトタマムシ
良	A	武蔵野台地らしさ。雑木林や用水、田畑、湿地等に特化して生息するもの。レアではないがいてほしい生きもの。	ヒメタニシ、アオモンイトトンボ、カブトムシ
普通	B	普通種。都市や道ばたなどでも見られる生きもの。	オンブバッタ、キタキチョウ、ヒトスジシマカ、スズメ、ハクセキレイ
外来種	外	外来種	ガビチョウ、アメリカザリガニ、アカボシゴマダラ

別表2 経緯について

導入	ビオトープの質の向上等を目的に、意図的に導入した生物
非意図的導入	土や水草などの移植に伴い、意図せずに入ってきた生物
発芽	ビオトープに導入した土壌から種子が発芽したもの
自然飛来	ビオトープ創出後に周辺から自力で移動してきた生物
遺棄・放流	飼育されていたペットや園芸種などが捨てられたり、放流されたりしたもの

別表3 希少性の表記について

表記	カテゴリー名称	基本概念
EX	絶滅	当該地域において、過去に生育・生息していたことが確認されており、飼育・栽培下も含めずでに絶滅したと考えられるもの
CR	絶滅危惧IA類	ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
EN	絶滅危惧IB類	IA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
CR+EN	絶滅危惧I類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
VU	絶滅危惧II類	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧I類」のランクに移行することが確実と考えられるもの
NT	準絶滅危惧	現時点での絶滅危険性は小さいが、生育・生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
DD	情報不足	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧のカテゴリーに移行し得る属性を有しているが、生育・生息状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの
・	非分布	生態的、地史的な理由から、もともと当該地域には分布しないと考えられるもの